

平成28年度 施策評価シート

基本目標	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	540 多様な公共の担い手が協働できるしくみをつくる
施策	542 区民の区政参画と公共サービスにおける協働を進める
施策の目標	さまざまな立場の区民が、区政の意思決定過程に参画するためのしくみが充実し、区民・事業者などそれぞれの主体と区との役割分担が明確となり、地域の課題解決のために公共の担い手となって協働し、活躍しています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
公募委員が委嘱されている審議会等の割合	%	40					17
「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合	%	30					5.9

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
誘致を決定した大学数	校	0	0	0	0	0

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>文花地区の町会、自治会、青少年育成委員、区議会議員等で構成される検討会とも協議を重ねつつ、地域にとって望まれる大学像、まちづくり像を共有しつつ、進出意向のある大学と個別折衝中である。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
<p>【上記の判断理由】</p> <p>区政進展上の重要課題であることから、現状維持とするが、これまで誘致決定できなかった反省を踏まえ、より効果的に折衝を重ねる必要がある。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>大学誘致については、個別の大学を交渉相手として、誘致決定する。 その他の事業については、事業効果を高めるために創意工夫をしながら実施していく。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	大学誘致推進事業	政策担当	6,784	改善・見直し	区の方針に基づき引き続き実施していく。
2	区功労者表彰事業	秘書担当	1,614	現状維持	社会情勢の変化を的確に捉え表彰区分を見直す必要がある。
3	新年祝賀式事業	秘書担当	1,164	現状維持	26年度よりも出席率は3ポイント向上しているものの、依然として低い(38%)。区政70年を迎えたことから、出席者の増加策も含め改善する必要である。

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	大学誘致推進事業		所管課・係	政策担当
施策	542	区民の区政参画と公共サービスにおける協働を進める	連絡先	5608-6231
予算書名称	大学誘致推進事業		執行実績報告書ページ	19

1 事業の概要

旧西吾嬬小学校及び旧曳舟中学校跡地を活用して大学を誘致することで、若者の流れを呼び込み、地域経済の活性化や地域の賑わいを創出する。また、大学の持つ資源を区政に活かし、国際化の推進、産業振興や防災の強化等、区の課題を解決する一助とする。	事業開始年度	平成20年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
大学が持つ知的・人的資源等を活用する機会を求めている区民・区内企業・地域団体等	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
旧西吾嬬小学校及び旧曳舟中学校の学校跡地を活用して大学を誘致し、大学が地域において一定の役割を果たす仕組みを構築するために、大学と区が様々な分野での連携	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
区民の生きがいづくり(生涯学習の機会の提供等)や区内企業の技術革新、地域の活性化、防災力の強化、国際化の推進等がもたらされている	状態にする。
目的を達成するための指標	
種類	指標名(指標の説明)
活動指標 (手段に対する指標)	誘致を決定した大学数
成果指標 (目的に対する指標)	地域と大学の連携事業数
単位	年度
校	目標値
	実績値
事業	目標値
	実績値
	H25年度
	H26年度
	H27年度
	1
	0
	0
	0
	0
	0
	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)	
誘致大学の決定を活動指標としている。また、生きがいづくりや区内企業の技術革新等、各方面への影響を網羅した成果指標の設定は困難であるため、「大学と地域の連携事業数」を成果指標とする。 複数の大学と折衝をしているが、各大学における学内調整等に時間を要することから、区側の想定スケジュールどおりに事業を進めることが困難となっている。	

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	総務費	項	総務管理費	目	企画調整費・財産管理費
27年度歳出予算額	7,967	27年度歳出決算額	6,784	27年度執行率	85.2%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		124,759
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>大学が持つ知的・人的資源の活用、防災拠点の創出等は、今後区民からさらに強く求められる。また、大学誘致は区内及び周辺地域に与える影響も大きく、区が主導的に推進するべきであることから、事業の必要性は高いといえる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>誘致大学が未決定であるため、現時点で事業の有効性を図ることは困難である。しかし、他区事例を見ると、大学の誘致が地域に与える影響は大きい。このことから、本区においても誘致大学と綿密な連携体制を構築することで、その効果が多方面に広がるものと予想できることから、「どちらかかといえば有効」とした。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>様々なツールを用いて広く情報を集め、本区への進出意向を持つ大学と個別に折衝を行っているため、効率的といえる。</p>				
(4)現状と課題	誘致大学を早期に決定すること。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>昨年度末から、本区への進出意向を持つ大学と新たな協議を進めており、これまで誘致大学が決まらなかった反省点を踏まえ、協議に取り組む必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>大学側との接触の機会を増やし、相手の要望と進出が本区に与える影響とを精査するなど、連携を密にしながら協議を進め、誘致大学の早期決定を目指す。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年6月、平成28年2月	
	要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・大学誘致の進捗状況について ・大学用地や周辺地域の基盤整備について 	

事務事業名	区功労者表彰事業		所管課・係	企画経営室秘書担当
施策	542	区民の区政参画と公共サービスにおける協働を進める	連絡先	5608-6233
予算書名称	区功労者表彰経費		執行実績報告書ページ	33

1 事業の概要

墨田区表彰規則(昭和26年度制定)を根拠法令とし、自治功労、地域自治振興功労、社会福祉功労、保健衛生功労、産業振興功労、教育振興功労、善行・徳行の区分により、功績顕著な者又は他の模範として推奨するに値する者を表彰する。 表彰は毎年5月15日に行う。	事業開始年度	昭和26年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
自治の振興、発展及び区民の生活と文化の向上に特に功労のあった者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
感謝の意を表すとともに、区政の伸展等に対し更なる尽力を促進するために表彰式	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
郷土への愛着を高めるとともに、区政への信頼感の向上を図る。また、他の区民に対して受章への機運を高めることにより、自治の振興・発展及び生活・文化向上が図られた	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	表彰者数	人	目標値			
			実績値	46	78	47
成果指標 (目的に対する指標)	表彰者総数 (開始当初からの累計表彰者数)	人	目標値			
			実績値	2,931	3,009	3,056
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
毎年度実施していくことで、区民の励みとなり、目的の達成に近づく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	総務費	項	総務管理費	目	総務諸費
27年度 歳出予算額	2,141	27年度 歳出決算額	1,614	27年度 執行率	75.4%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
地域に貢献された方にとって本表彰は励みであり、期待も高い。 区が事業を実施すべき強い理由があり、事業を休止・中止した場合の影響も大きい。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
表彰者数は表彰規則に基づき決定しているため年度により異なるが、毎年度継続して実施していくことにより、一定の成果を上げている。 施策目標を達成するための手段も適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
関連・類似事業との統合は不可能である。 式典の格式を損なわない範囲で簡素化に努めつつ、効率的に事業を実施しているため、事業にかかる経費は横ばいである。				
(4)現状と課題	表彰区分や式典の実施方法について、必要に応じて見直しをしていく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	現状で効果は高い状況にあるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	毎年度継続して実施するとともに、表彰にふさわしい方を的確に表彰していくことが求められる。 これまでも、状況に応じ表彰区分など必要な改正を行ってきた。今後とも、社会情勢等の変化を的確にとらえ、目標達成に向けて適切に執行していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	新年祝賀式事業		所管課・係	企画経営室秘書担当
施策	542	区民の区政参画と公共サービスにおける協働を進める	連絡先	5608-6233
予算書名称	新年祝賀式経費		執行実績報告書ページ	33

1 事業の概要

日頃、区と関係のある各関係機関や、団体を代表する方々と共に新年を祝うことにより、区政の伸展と地域の発展に資することを目的としている。 招待者は区関連の国会・都議会議員、区議会議員、官公庁、町会・自治会、区内各団体の代表者等、約1,600人を招待している。	事業開始年度	昭和55年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区と関係のある機関や団体の代表者等	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区長が新年の抱負を語り、一堂に会して新年を祝う新年祝賀式・賀詞交換会	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区の現状を理解していただくとともに情報交換や交流を深め、区政への信頼を高める	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	招待者	人	目標値	/	/	/
			実績値	1,780	1,680	1,622
成果指標 (目的に対する指標)	出席者	人	目標値	/	/	/
			実績値	566	581	617
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
毎年度開催していくことで目的の達成に近づく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	総務費	項	総務監理費	目	総務諸費	
27年度 歳出予算額	1,201	27年度 歳出決算額	1,164	27年度 執行率	96.9%	28年度 歳出 予算額	1,207
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	会費(飲食費相当)を徴収			収入額	617
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>出席率は例年30～40%を横ばいで推移しており大きな変化は見られないが、区政への信頼を高め、情報交換・交流を効果的に行うことができるためこの事業を実施すべき理由はある。事業を休止・中止した場合の影響は大きいことが予想される。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>施策目標を達成するための効果的な手段としては概ね適切である。一定の成果は上がっていると考えられるが、出席者からは開催日の設定等に関する意見が出ている。また、今後出席者の増加に伴い、会場のスペース確保等についても検討していくことが必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連・類似事業との統合は不可能である。式典の格式を損なわない範囲で簡素化に努めつつ、効率的に事業を実施しているため、事業にかかる経費は横ばいである。受益者負担(参加費)についても適当である。</p>				
(4)現状と課題	出席者数の増加に努め、それに伴う諸問題について対応していく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	現状においても一定の効果は上がっているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	より効果的な事業としていくため、招待者を精査するとともに出席者の増加に向けた検討が必要であるとする。それに伴い、会場のスペース確保なども検討していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	